

No	委員名	ご提案・ご意見の内容	頁	反映内容
1	影山委員	将来のCNFによる貢献、影響、活性化等のストーリーを明示する必要がある。	2	重要なお提案と認識していますが、CNFは、今後、市場が創出されていく分野であり、具体的にその貢献度や影響、ストーリーを示すことは困難であるため、2頁の図に留めさせていただきます。
2	小島委員	CNFがどれほどの価値を持つものであるか、業態別、業種別、商品別ごとなどに整理されている情報など、CNFの活用を掘り下げて記載する必要がある。	13 25 26	本推進構想は、CNF関連産業の集積を図るため、目指すべき将来像や、具体的に展開する施策等を位置付けたものであります。ご提案の各種情報等につきましては、「方針1 CNFの理解促進」や「方針2 CNFの活用促進」に基づき展開する事業において、受け取り手のニーズを踏まえるとともに、CNFの利活用を促す的確な提供に努めてまいります。
3	渡邊委員	方針3の外部との連携強化において、富士市の取組が、オールジャパン（国内のCNF関係者）に対して貢献するメッセージを追加する必要がある。	24 27	24頁の「3 CNF・地域産業の拠点とネットワーク形成」の3段目の記述を、「～人材交流等を図り、本市のみならず、全国の取組事例の紹介や情報提供の場づくりを展開し、CNF関連産業の底上げにつなげます。」に修正しました。 27頁の「3-3 全国の地域CNF推進組織等との連携強化」の1項目を「横断的な連携における情報収集及び共有の場づくり」に修正しました。 なお、本推進構想は基礎自治体である富士市の行政計画であるため、国内全体のCNF関係者への貢献について標記することは難しい面もありますが、推進構想に基づく諸施策の展開により、CNF関連産業の底上げを目指します。
4	河崎委員	施策の中での環境と紐付ける必要がある。	25 28	25頁の「1-2 取組ステージに応じたCNF知識の普及啓発」に、「バイオマスの利活用による環境に対する意識の醸成・普及啓発活動」を追加しました。 また、CNF出前講座において、CNFが環境に優しい素材であることや循環型社会の構築に寄与することを周知するとともに、方針4及び方針5の施策展開の中で、環境に対する意識の醸成や環境ビジネスとして成り立つ視点での、富士市発製品のブランド化やCNFを活用する意義、メリット等を伝える方策を検討してまいります。
5	磯貝委員	企業がCNFに取り組むきっかけになるよう、多少お金をかけても目に見えるようなわかりやすいものの展示や成功例のアピールやアドバイス等ができる環境づくりを記載する必要がある。	25 26 28	25頁の「1-3 様々な媒体を通じた情報発信の強化」の中で取り組む、啓発パンフレット・冊子の作成やウェブサイトの運用等において、成功例の紹介をしてまいります。 26頁の「方針2 CNFの活用促進」において、富士工業技術支援センター等と連携し、アドバイス等を含め情報提供や技術相談に取り組んでまいります。 このような当市における取組を、28頁の「方針5 CNFのまちブランド育成」のプロモーションの強化において、プラットフォーム等で生まれた製品の展示や製品開発に至った経緯等を積極的に発信してまいります。
6	佐野委員	CNFに関する相談は多岐にわたる中、富士工業技術支援センターは、CNFの専門部署を構えていることから、技術的な相談等に対する役割を担う点を明記する必要がある。	26	26頁の「方針2 CNFの活用促進」の説明を、「本市に立地し、CNFの専門部署を設置する静岡県富士工業技術支援センター等と連携する」に修正しました。
7	佐野委員	ネットワークを構築する上で、コアとなる企業や人材を誘致・集積し、牽引してくれる企業を行政が後押しする体制を整備する必要がある。	27	27頁の「3-1 人材育成と研究機能の強化に向けた拠点整備」の中で、「CNFに取り組む中核企業やユーザー企業等によるネットワーク構築支援」の記述を追加しました。

8	影山委員	人材活用の視点から、企業OB、OG人材が、知見等を展開できる場づくりを考える必要がある。	27	27頁の「3-2 企業等のマッチング機会の創出」の2項目を「静岡県CNFコーディネータ等との連携」に修正し、「企業OB、OG人材の活用」を追加しました。
9	影山委員	CNFの期待や不安要素等、製品開発や製品を売っていくためのシーズとニーズの対話の必要性がある。	27	27頁の「3-2 企業等のマッチング機会の創出」の中で、「シーズとニーズをつなぐ機会を創出」していくこととしておりますので、この考えに基づき実効性のある施策を展開してまいります。
10	磯貝委員	方針3について、応用展開を進める施策と同時に、情報連携やネットワーク構築など、地道に足場を作りながら進めていく視点(大学、産総研等との連携・情報交換等)。また、今あるものとの連携のみならず、新しい組み合わせやネットワークを構築する必要性がある。	27	27頁の「3-3 全国の地域CNF推進組織等との連携強化」の連携先を【県・大学等・事業者・他地域・産業支援機関】に修正しました。 また、この連携強化を図る上で、既存の組織のみならず、様々な連携先と情報共有・交換の場づくりに取り組んでまいります。
11	渡邊委員	CNFを「使う」視点として、富士市が富士市発のCNF製品を購入・活用し、評価を発信する等を展開する必要がある。	28	28頁の「方針4 CNFの事業化推進」の「4-2 ビジネスモデルの構築」の中の販路開拓やビジネス化の支援における事業として、検討してまいります。
12	松下委員	実験所や研究施設の誘致、職員の派遣などの観点を追加する必要がある。	28	28頁の「方針5 CNFのまちブランド育成」に、「CNF関連企業や研究施設等の誘致促進等」の記述を追加しました。 ご指摘いただいた職員の派遣は、市としても、情報収集や連携強化等を考えた時、重要と考えております。現時点でも経済産業省に市職員を派遣しておりますが、方針及び施策をパッケージ展開できるような人材の育成・活用に向けて、派遣先を含め今後の対応を検討してまいります。
13	片山委員	CNF製品の認知度向上と消費者の購入の促進のためのCNFマークの導入について検討したらどうか。	28	CNFマークについては、まずはCNFの持つ機能性や環境に優しい素材であることを幅広く周知する必要があると考えます。また、CNFに関係する業界等の全体での議論も必要と考えます。本市において、CNF製品の認知度向上やブランド価値を高める方法として、「富士ブランド」などがありますので、方針4や方針5の施策展開の中で、富士市発製品のブランド化やCNFを活用する意義やメリット等を伝える方策を検討してまいります。
14	渡邊委員	施策の展開スケジュールについて、短期的なアクションプランのスケジュールを示す点線箇所を精査する必要がある。	29	修正・反映済み
15	渡邊委員	KPIとして、CNF関連製品数や人材育成等の視点で再考する必要がある。	33	33頁の方針1に基づく指標を「市が主催するセミナーや研修事業への参加延べ人数」に、方針4に基づく指標を「CNFを活用し、製品化した市内事業所数」に修正しました。
16	松島委員	CNFへの取組フェーズやCNFの活用が見込まれる市場規模等が異なることから、個々のビジネスとして成立する段階や経済を活性化していくレベルなど、この構想の狙いやターゲットを明確にする必要性がある。	-	CNF関連産業の推進にあたりましては、CNFの裾野を広げることが重要であり、企業規模や業態に捉われないことなく、門戸を広げて、様々な事業者・機関等に関わっていただくことが重要と考えております。 このことから、CNFの市場動向や技術開発動向を見ながら、ビジネスとして成り立つフェーズや経済の活性化につながるような大きな市場やボリュームゾーンでの活用も見据え、プラットフォーム事業等の様々な施策を展開してまいります。 なお、事業者ごとに、CNFの知識の習得度や取組状況に違いが見られることから、市が主催するセミナー等においては、ニーズ・ステージに応じた開催に努めてまいります。